

## 琵琶湖・淀川流域

# 水辺のノート

## その3

### 西大阪地域を高潮の被害から守る水門方式の防潮施設

取材先 / 大阪府土木部河川課

#### 大水門と排水機場の連携プレー。

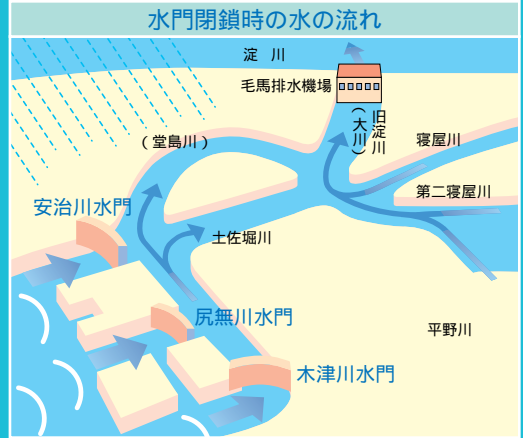
西大阪地域は、その地形的条件から高潮被害が起こりやすく、昭和25年のジェーン台風、昭和36年の第2室戸台風によって大きな被害に見舞われました。これを契機に「超大型台風による高潮に十分対処できる恒久的防潮施設」をめざし、昭和40年度から高潮対策に関する事業が進められました。

数多くの橋がある大阪では、橋梁の高さをかさ上げすることは、都市機能への悪影響や工費・工期を考え合わせるとほぼ困難ともいえるため、従来の防潮堤方式をさらに発展させた水門方式を用いています。

水門方式とは、河川の中・下流部に水門を設置して、高潮をせき止め、水門より上流に高潮をそ上させないようにし、下流には必要な高さの防潮堤を設けるというものです。

昭和45年には、旧淀川筋の中でも主要河川である安治川、尻無川、木津川に国内でも珍しいアーチ型の大水門3門が建設され、第一線の防潮ラインが完成しました。また、防潮水門を閉鎖すると水門より上流側の市街地で河川が浸水氾濫を起こす恐れがあるため、毎秒約330立方メートルの排水能力を持つ毛馬排水機場(甲子園球場を約30分で満杯にする能力があります)で防潮水門閉鎖時の内水を速やかに排水します。このように、防潮水門で海からの高潮を防ぎ、上流からの水は強制的に排水するという連携プレーによって西大阪地域を高潮被害から守っています。

さらに現在は、より安全な暮らしのために防潮堤の耐震性の向上などの取り組みが引き続いて行われています。



安治川水門 毛馬排水機場  
(赤色は水門閉鎖時を示します)

川や水に関するみなさまの質問やご意見・ご感想をお待ちしています。

「ビワズ通信・Q&Aコーナー」宛までお送りください。採用させていただきます方には記念品を進呈します。

**A** 「太郎」という言葉を辞書で引くと『長男の称、最もすぐれたもの、最も大きなもの』などの説明がされています。すなわち、それぞれの土地でいちばん大きな河川のことを「太郎」と呼び慣わしたものと思われ、全国的に見ると坂東太郎(利根川)、筑紫二郎(筑後川)、四国三郎(吉野川)が広く知られ、地名事典によると『これらの名前を並称し、三大河川の順序を称したものとあります。また各地には川だけでなく、太郎岳や太郎山などの地名も残されています。』

松田 猛さん(大津市)

**Q** 毎号、ビワズ通信を楽しく読ませていただいています。秋号で取り上げていた野洲川を近江太郎といったり、利根川を坂東太郎と呼ぶように、大きな河川をなぜ「太郎」と表現するのですか。

